

月刊反トマホーク通信

No. 32

88.6.20

東京都渋谷区渋谷 2-5-9 パル青山 502 トマ喰虫社 ☎03(498)6095
044(63)5101



5・29 コスカ

デイス博士の報告

6.18 トマホーク神奈川県民審査会から

5.29 コモンデート88

核疑惑二艦の横須賀
配備撤回意見書可決
6/24 A 大和市議会
大和市議会は二十三日、核兵器搭載の疑惑が持たれている米

海軍駆逐艦ファイブと、巡洋艦バンカーヒルの横須賀配備計画の撤回を求める意見書を社会、公明、共産と保守系の一部の賛成多数で可決した。保守系の清和会は日本憲法体制を認める立場から反対した。
九月までに横須賀に配備するとしている両艦船は、巡航ミサイル・トマホークの垂直発射装置(VLS)を装備しており、ファイブに四十五基、バ

トマホークの配備を許すな！全国運動

●維持会員（月間会費）

個人 1日 2000円
個人 1日 1000円

●参加会員（月間会費）

個人 1日 1000円
個人 1日 500円

●通信会員

年間 2000円

あなたも仲間！



それぞれの思いを大声で叫んだ。
ちなみに、一等賞の賞品はナポレオン一本、二等は三宅島特産の焼酎島娘、三等はテレホンカードなどで、すべて有志のカンパによるもの。一等賞品のナポレオンを提供してくれた服部孝さんも参加して大声を張り上げたが、残念！ 三等賞となってしまった。
ここでプレ・イベントを終了、本集會にバトンタッチする予定だったが、当日参加して



さて、メインの本集會では、先に太鼓を叩

反核パフォーマンスに湧く

いた逗子市の市民たちが飛び入りで登壇。池子米軍住宅に反対する思いを込めた歌を披露してくれた。

前述のように、五・二九集會は世界的な広がりの中で取り組まれ、日本ではとくに新鋭トマホーク艦「ファイフ」「バンカーヒル」の横須賀母港化を焦点に行われたもの。当日は同時に沖縄と呉でも集會が持たれている。
また、コモンドート週間全体では、全世界二十九カ国、六十地域で共同行動が繰り広げられたことが、「反トマ全国運動」の梅林氏から報告された。

本集會でのイベントでは、歌手の新谷のり子の歌あり、「上瀬谷基地はいらないウドの会」メンバーによる反核パフォーマンスありで、会場を湧かせた。
「生活クラブ生協」、「ふれあいの会」などの代表がスピーチを行った。
本集會でのイベントでは、歌手の新谷のり子の歌あり、「上瀬谷基地はいらないウドの会」メンバーによる反核パフォーマンスありで、会場を湧かせた。

いた菊池さんによる、再度の景気づけのお神楽で開始。大石武一元環境庁長官のあいさつや、県評事務局局長の中村勝美氏、逗子市議の沢光代氏、千葉景子参議院議員、佐野城次郎評議院議員などが三分間スピーチを行った。また、市民グループ側からは、「三宅島のNLPに反対する会」代表、現地の「トマホーク艦のヨコスカ母港に反対する市民の会」、「厚木基地爆音防止期成同盟」、「トマホーク艦母港化計画県民審査会」、「生活クラブ生協」、「ふれあいの会」などの代表がスピーチを行った。

大声コンテスト

次は、プレ・イベント集會中のハイライト「大声コンテスト」の時間だ。これは、壇上から海を隔てた米軍基地に向かって反核や反トマホークを大声で叫ぼうというもの。声の大きい人には賞品も授与される。
ニュージラランドでは、市民が小船を仕立てて海上を開演し、核艦船の入港を阻んだ実績があるが、横須賀の地元市民グループでも、これにならった「平和船団」を結成している。この平和船団が、集會場の沖合に船出しており、陸上からの大声の届きぐあいを判定しようという仕組みだ。ちなみに審査委員長には川崎市の青柳さんをお願いした。

さて、参加者は次々と登壇、「平和の海を返せ!」「トマホークは来るな!」など、そ

イベントと全体集會の二部構成で午前十二時にスタート、盛夏を思わせる暑い陽差しの中で行われた。
プレ・イベントではまず、地元横須賀と横須賀在住の人たちでつくるロック・グループ「御三ノ宮パートII」の演奏で本番入り。C.R.(クリーデンス・クリヤーウオーター・リバイバル)やボブ・ディラン、ジョン・レノンなどおなじみの曲目を披露。最後に同グループのオリジナル曲で締めくくった。
集會参加者は、六〇〜七〇年代のヒット曲の数々に、当時の熱い気持を揺さぶられたようだ。一時会場はノスタルジックな雰囲気につつまれた。
続いては、当日各地から参加した地方参加者のあいさつ。京都、名古屋、呉、佐世保から駆けつけた市民運動家が壇上に上がり、反核・反基地・反トマホークを訴えた。

(日本はこれでいいの
か)
市民連合)

五・二九横須賀行動報告

核の海から生命の海へ

コモンドート88

田口 一成

三三〇〇人の参加者

五月の最終週は、全世界的に海の軍備撤廃を求める共同行動の日「コモンドート」週間である。日本でも、この呼びかけに呼応して、毎年五月の最終日曜日に大規模な集會を行ってきたが、今年は五月二十九日を「核の海を生命の海へ——コモンドート88」と名づけて実行された。

今回の五・二九行動では、私たち反トマ全国運動と神奈川県、県護憲などが実行委員会をつくり、会場も神奈川県横須賀市の米軍基地に隣接する横須賀臨海公園に設定。当日は三三〇〇人の参加者で会場を満杯にした。集會は、市民グループが企画運営するプレ

さらに続いて、横須賀のお隣逗子市在住の太鼓奏者菊池さんによるお神楽の演奏。菊池さんは、先祖が明治時代の秩父困民党蜂起の際、太鼓を叩いて励ましたという反権力の血筋を引いている。「宮廷音楽と違い、神楽は本来民衆の音楽」だとしている。

あいにくの雨の中、恨めしく空を見上げながら、五・二二依佐美行動は始まった。今年の依佐美行動は、これまでの集会・デモというパターンではなく署名・宣伝行動になった。その理由は、米国の核戦略の中で依佐美基地のはたしている役割が、地元の刈谷市民にあまり知られていない(当会のアンケート

米海軍依佐美基地 信所をなくそう

核も安保もいらない!
あいち反戦の会

て空を飛びまわるブルーインパルスに一般見学者は歓声をあげていたが、これ以上の騒音で日常的に苦しめられている岩国市民はともそんな気にはならなかっただろう。

基地内見学の後、市役所内にある岩国市職事務局で反基地交流会を行い、岩国基地の現

一ト調査結果では基地の役割は断片的にしか理解されていない(ことと基地周辺の人々と出会う機会をつくるということで、不十分だが月一回の基地周辺宣伝行動を積み重ねてきたことの延長上に今回のとりくみを位置づけたからである。また署名の方は、角岡(つのおか)刈谷市長、鈴木愛知県知事に対して、“依佐美送信所の撤去を求め”要請署名として、今回の行動を出発点として始めたものである。

当日午前10時、依佐美基地にほど近い国鉄名鉄駅の刈谷駅南口に、前日の交流会にひきつづいて参加したトマホーク阻止京都連絡会の仲間とともに集合。午前中いっぱい同駅の南北両駅頭に分かれて署名・宣伝行動を行った。雨の中、人通りもまばらなため署名もそう多く集まらず、意気もあがらず午前中の行

状と問題についての説明や、トマホーク艦の日本母港化反対の取り組み、ピース・スピリット具行動(五・二二)などについて話し合われた。

今回の行動は、岩国市職平和研究会としては初めての具体的な取り組みであり、岩国基

動は終わった。昼食の後、午後一時に再び南口に集合。三十分程のかんたんな集会を開く。名古屋労組連の阪野さん、京都トマ連の吉田さんから発言をいただく。そして、いよいよ2コースに分かれて基地めざして出発となった。ビラをまき、ハンドマイクでアピールしながら、途中、集中的に各戸ビラ配布を行うといった形で、総勢三十名の仲間が雨を歩いて歩く。基地の北側を回るコースには、角岡刈谷市長の自宅があり、その周辺ではとくに念入りに情宣が行われた。一方宣伝カー2台(1台は途中から加わった京都の宣伝カー)が両方のコース沿いを縦横に走り“依佐美基地撤去”をアピールした。

三時ごろ参加者全員が基地に隣接する双葉公園に到着。雨にけむる基地をにらみながら、まとめの集会が行われた。地元刈谷市に住む

地撤去の闘いを前進させるためにも大に意義があったと思う。今後は、平和研を質的量的に発展させ、反戦反核、反基地、反原発、反天皇を闘う全国の仲間たちと結んでいきたい。

5.5 こんな基地は いらん!

ピーススピリット
岩国行動
岩国市職
平和研究会

さる五月五日(子)子どもの日、岩国市職平和研究会は、広島、呉の仲間たち十数団体とともに、岩国基地開放デーにあわせてピース・スピリット88行動にとり組んだ。

基地開放デーとは、米軍と自衛隊が、基地や軍隊の存在を容認させるための“宣撫策”として年一回行うもので、当日は基地内に民間人を自由に出入りさせ、軍用機などを見学させたり、米兵が日本人と一緒に軍用機の前で記念撮影におさまったりしてサービスにとめる。また自衛隊はジェット機ブルーインパルスの曲芸飛行を披露したりする。

この開放デーの入出は毎年十万人といわれ、(岩国市の人口は約十二万人)県内に限らず近県各地からの見学者で当日は国道に車の長蛇の列が続く。また今年は、これに合わせて

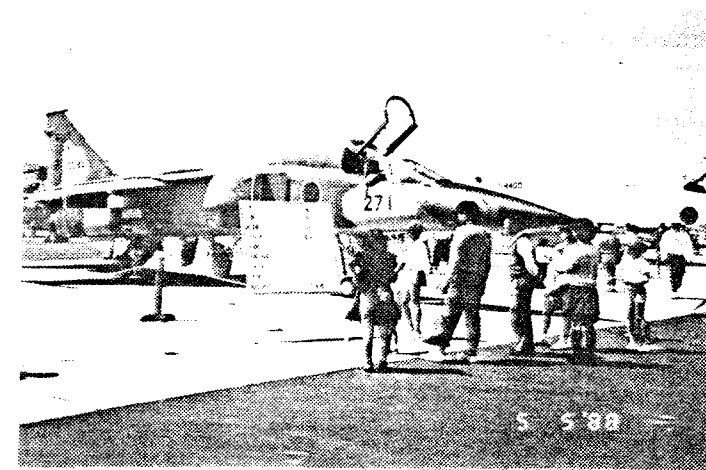


基地見学者にビラまき (5.5)

市内の商店などにより、基地近くの路上に“アメリカ村”なるものが企画され、色々なイベントが行われた。

われわれ十数名はこの日、基地正面ゲート前の路上で約一時間半にわたって「こんな基地はいらん」と題したビラを基地に入る人々に配布した。

ビラを受け取った人々はほとんどが「エ?」というげんげな表情で「今から基地に遊びに

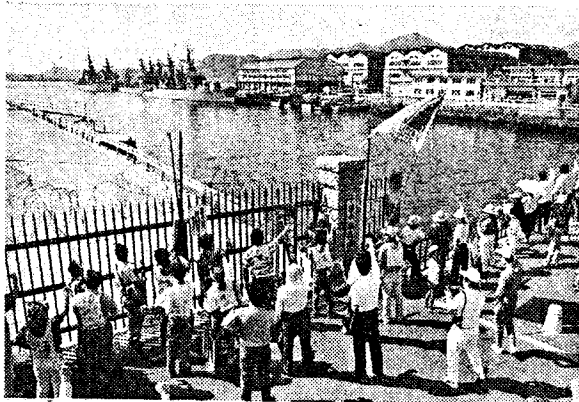


行くのに基地はいらんといやア」ともらす人もたくさんいたが、中には自分も基地騒音で苦しんでいるから基地反対(撤去)には同感だと積極的に述べる人もおり、基地に行くから全部が全部基地を容認しているというものでもないことを示していた。

ビラ配布の後、ピーススピリットの赤旗を掲げてわれわれも基地内に入り見学を行った。色とりどりの煙を吐きながら轟音を響かせ

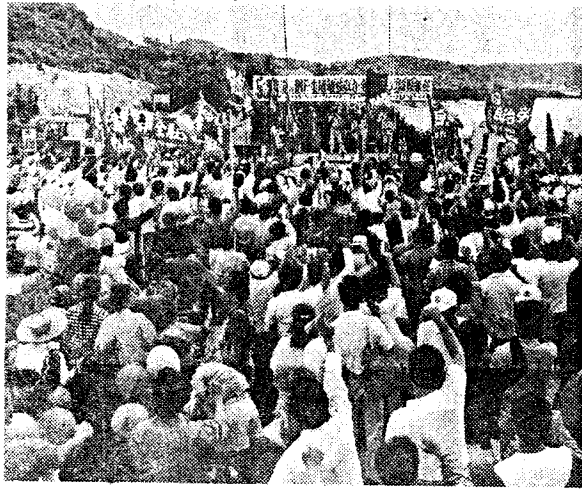
海の軍備はいらない

横須賀など 4 港で国際共同行動



▲広島・呉港

社会新報より) 沖縄・ホワイトビーチ▼



と連呼しながらねり歩いた。▽(デルタ)女の会のメンバーがつくった「桃太郎さん」の替え歌「トマホークさん」も好評だった。この太鼓の音は、道行く人々の関心をいつになくひきつけた。

米艦の呉入港

二十五日には広島市長に向けてSSDⅢの発言の中で海のINFの全廃、とりわけトマホーク艦の横須賀配備に対し被爆地の長として絶対反対の意思表示をするよう要請した。ところがその日、呉市役所記者クラブには、

二十七日米艦が呉港に入るという情報が入り、大騒ぎになっていた。私たちは急遽二十六日、呉市に、核はないという証明がない米艦の入港は拒否するよう申し入れ、当日、朝八時海上自衛隊Fバースに二十人が集まった。その場でラズバーン、サンブルの入港に抗議する集会を開き、艦長あての英文の抗議文をよみあげ、サンブル乗員に訴えた。

その後、何の対応もしなかった呉市に抗議するため市役所へ移動。そこで偶然サンブルの艦長が市長を表敬訪問するところに出あわし、とっさに彼らを追いかけ、エレベーター

の中で英文の抗議文を手渡した。市との交渉では、正式には市に何の通知もないままです。一つ、一方で艦長の表敬訪問を受けるという市の姿勢を追及した。

二十九日の集会は一週間前とうって変わって快晴の中で行われ一五〇〇〜二〇〇〇人が集まった。これは呉では少なくとも十五年ぶり以上のことで、ピース・スピリットⅢの中で横須賀集会に呼応して呉でこのような集会がもたれたことは画期的だった。折りしも目の前には二隻の米艦が停泊しており、集まった人々の中に継続的な取り組みへの意欲がめばえることを期待したいと思う。

そして三十一日には県に対し米艦の入港に抗議すべきであるという要請を行った。

この十日間は実に慌ただしく通り過ぎた。特にその中間に米艦が呉に入ったことで、ひととき忙しくはなったが、その分、私たちの側も盛り上がった。こうして今年の国際ウィークエンドは思わぬ形で多彩な取り組みが実行できた。今、広島県、呉市、広島市向けの要請署名の第一次集約をとりまとめ、六月下旬から関係機関に提出していく準備に入っている。それを、秋へ向けてのトマホーク艦母港化阻止の世論づくりの出発点にしたいと考えている。

5.22 呉 瀬戸内を核の発 射台にするな！

湯浅 一郎

(トマホークの配備を
許すな！呉市民の会)

全国的なピース・スピリットⅢに呼応して、岩国、広島、呉の地域から声をあげようとした始めた広島行動は、五月末の呉を中心とした取り組みで一段落を迎えた。この間私たちはトマホーク艦の横須賀配備をとめるために広島島の地で何ができるかを追究し、被爆地の自治体をして母港化反対の意志を表明させようという世論づくりの力を注いできた。五月の「海の軍備撤廃を！ 国際週末」はその一つの節目と考え、五月二十二日、「瀬戸内の海を核の発射台にするな」をテーマにピース・スピリットⅢ呉を行き、その上で県労、SSDⅢにむけて行動する広島県の主催の五・二

雨のなかの “ダイ・インもどき”

地を含めた)が重視されざるを得なくなっている中での取り組みであったのだが、今後の状況の煮詰まりにつれて、その成果が表われるような署名も含めた運動をさらに進めていきたいと考えている。

九「核トマホーク艦入港阻止、海洋の非核化を求める呉港集会」に合流するという企画を準備した。

二十二日は朝からの大雨の中、蔵元通り公園で五〇人あまりが集まり、傘をさしての行動となった。各団体のアピール、歌につづき、当初呉港での核兵器事故を想定したダイ・インを予定していたが、雨でできず、結局一分間目をつむって、核事故に想いをめぐらすことで、「ダイ・インもどき」を行った。最後に子どもが“とびうおの坊やは病気で”の一節を朗読し、「この本をよんで私は、核兵器を地球からなくさなければならぬと思います」と述べたところで閉会した。

その後中通り商店街をパレード。太鼓にあわせて「核の海からのいのちの海へ！ トマホークいらないよ！ 呉に核はいらないよ！」

平凡なトマホークの火災事故、あるいは 艦船の原子炉事故が起こったら 聴く人をうならせるデビス博士の報告

6. 18トマホーク神奈川県民審査会から

加納 明

待望の来日

「核兵器事故をアセスメントする会」(代表Ⅱ大石武一元環境庁長官)の招きで、米カリフォルニア大学教授ジャクソン・デビス博士の待望の来日が実現した。同氏の名は、核廃棄物の海洋投棄反対の論陣を張った学者として私たちにはおなじみである。最近ではトマホーク搭載艦、戦艦ミズーリのサンフランシスコ母港化が計画された際、同艦で発生する事故の環境アセスメントを科学的に行い、母港化阻止の大きな契機を生み出し、私たちのファイフ、バンカー・ヒル母港化阻止運動に大きなヒントを与えた。

「アセスメントする会」では、横須賀、呉、佐世保の港で軍艦推進用原子炉と核兵器の事故のアセスメントを依頼した。算出の前提となる三つの港周辺の地形図、人口分布、気象データなどの基礎的データは、いずれも約二カ月前に「アセスメントする会」の責任で博士のもとへ送ったものである。今回の来日は、それらのデータに基づく研究発表を日本の各地で行う目的で計画された。

最も危険な核

トマホーク神奈川県民審査会の講演で、デビス博士は四つのテーマに分けて報告した。一、核搭載能力艦、原子力推進艦寄港の政策的枠組み、二、事故の帰結、三、事故の確率、四、政策勧告、である。

一について。米海軍の核戦力は世界中にあるあらゆる核戦力の中でも最も危険なものである。なぜなら、自国の港を離れて核艦船を同盟国の港に配置する前進展開戦略Ⅱ母港化政策をとっている。これは米海軍だけである。日本の港は全て核攻撃の目標になり、核事故の危険を伴う。横須賀、横須賀といった大都市に原発が建設されるとは考えられないし核兵器貯蔵も明らかである。にもかかわらず、米軍の政策として情報開示がないため核艦船の寄港の危険性について公開議論が成立せず、とりわけ日本においては一層そうである。

しかし、アメリカ軍は事故の可能性を認めている。比較的発生する可能性の少ないものとして、「偶発的核爆発」、「核兵器の落下(発射でなく、誤って搭載された艦や飛行機からはずれてしまうこと、既に発生した事実もある)」があり、最も起きる公算の大きい事故として、「推進用原子炉事故」、「火災による核兵器への引火」がある、と考えられている。

七七〇〇〇人の死者

二について。今回のデビス博士の研究は、①プルトリウム239を5g有する核弾頭一個が3時間船舶火災で燃焼した核兵器事故。②炉心溶融と格納容器の破損により放射能を帯びた炉心の一部が4時間にわたり周囲の環境に放出される原子炉事故、の二つのシナリオについて行われている。それらがもたらす結果は、アメリカの民間原子力産業を規制するために米原子力規制委員会(NRC)によって公表されている方法に基づき、極めて控えめな仮定と組み合わせた結果として算出されている。

それによると、核兵器事故、原子炉事故のいずれを問わず、煙霧状の放射能雲を生ぜしめ、最も多い夏風の風向きで北北東へ移動、約二キロから十キロ幅のブルーム(煙霧の気塊)として横須賀から東京都心部を通過する。ブルームは帯状に放射能を残して重大な放射能汚染とそれに伴う死者が想定される地帯は半径一〇〇キロ以上に及ぶ。東京、横浜はもちろん、船橋、千葉、大宮、川越、八王子、平塚といった主要都市も含まれる。

これによるプルトリウムの空気中濃度は事故現場近くで、現行米連邦政府限界値を一万倍まで越え、東京全域でも一〇倍〜一〇〇倍になる。また、当然に放射性降下物として地表や建物の内部に取り込まれ、外部表面の汚染濃度は事故現場近くで米連邦政府限界値の一〇〇万倍を越え、東京全域でも一〇〇〇倍を越える。

それらの地域に存在する人々は、空気の吸入によって内部被曝する量だけでも米連邦政府基準の約一〇〇〇倍、東京のほぼ全域で限界値の約一〇〇倍になる。これらのことから必然的に人々は遠隔地に避難を強いられ、東京経済は一時停止に追い込まれる。これによる「間接的」損失は計り知れないが、かりに汚染除去が可能であると仮定したとしても、その費用は米政府の研究に基づく約十九兆円、つまり日本の国家予算の三分の一になる。これらの結果もたらされる死者の数については、核兵器事故の場合、事故地点から一〇KMまでに及び二四、九七一人。放射性降下物による中期のおよび長期的被曝(地上照射)により、最初の一週間でさらに死者数は二五、五六五人増加し、その後の一年でさらに二六、九九四人が加わり、従って一年間避難をしなかった場合、潜状ガンに

最新情報

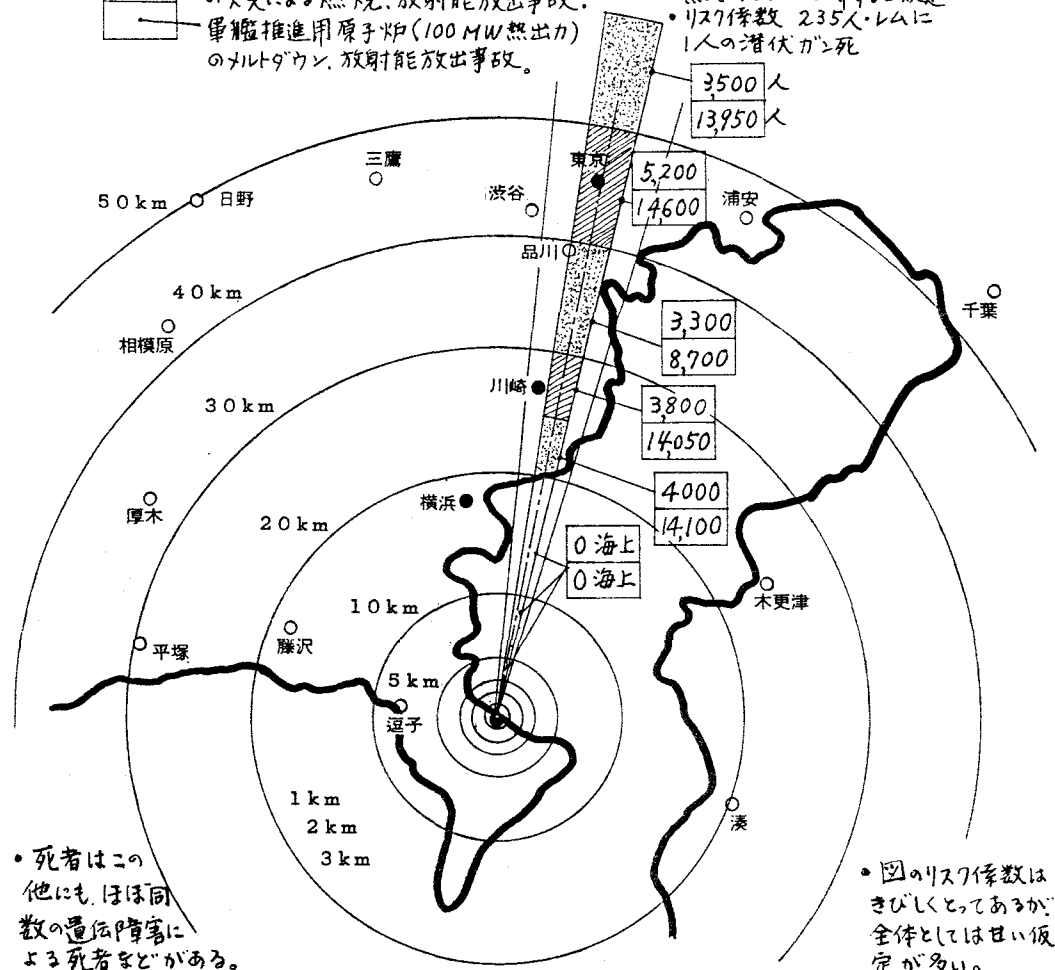
ファイフ、
バンカー・ヒルは
まだ
サン・ディエゴ
に
6.15

サン・ディエゴの平和資料センターからトマホークに寄せられた六月十五日づけのファイフとバンカー・ヒルは、いまだサン・ディエゴに滞在している。両艦は出入港を繰り返しているが、四、五日以上港を出ることはない、との話である。

晩発性ガンによる死者

トマホーク弾頭1発(70リットル 2395Kg)
の火災による燃焼、放射能放出事故。
軍艦推進用原子炉(100MW熱出力)
のメルタダウン、放射能放出事故。

- ・南々西の風、風速 1 m/秒
- ・大気安定度 F (最も安定)
- ・熱によって放射能 事故地点で 100 m 上昇すると仮定
- ・1/2 係数 2.35 x レムに 1 人の潜伏ガンと死




四について。日本国民と政府は、核艦船の寄港に伴うコストと利益を公開の場で真剣に討議し、寄港を認めるか否かの政策の見直しを行うべきである。もし、寄港を受け入れるとしても、次のことを怠ることは許されない。本研究はそのことを示している。一、核事故の環境への影響を詳細に分析すべきである。とりわけ陸と水への影響、海の生態系に注目して行うべきである。二、日本政府と関係自治体は、核事故がもたらす医学的被害について、充分な人力と資力を投入した分析を行うべきである。三、日本政府と関係自治体は、核事故に備えて避難計画を策定すべきである。四、避難計画については予行演習を実施すべきである。五、日本政府、関係自治体は、米軍当局者と現実的な放射能除去計画、責任所在、経費、期間等について協議すべきである。六、核事故のもたらす経済的影響、さらには国際経済への影響を分析すべきである。七、日本政府は米軍に核事故に関するあらゆるデータの提出を要求すべきである。

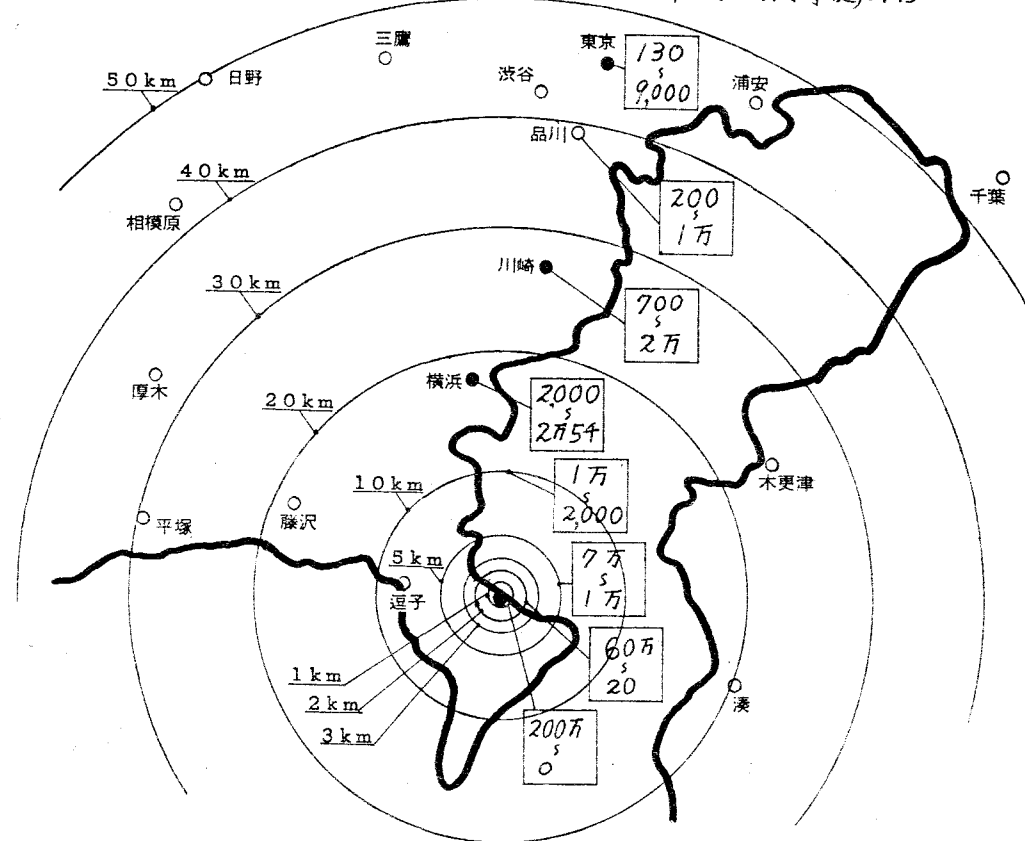
以上の講演を行った上、博士はミズーリ母港化阻止の経験に基づき、公開による問題討議の必要性を重ねて強調し、日本の運動に希望のメッセージを残して会場をあとにした。

大気のリットニウム汚染 (単位: 1立方メートル当りのビスマス当り)

トマホーク核弾頭1発 (Pu^{239} 5kg) の火災による
 燃焼を仮定 上の数字: 熱により再燃


 上の数字: 熱により事故地点で放射能雲
 の上昇がない場合
 下の数字: 熱により事故地点で放射能雲
 が100 m 上昇した場合

アメリカ原子力規制委員会(NRC)の限界値(3時間呼吸): 175



事故の確率

よる死亡者だけでも七七、五三〇人となる。さらに重度の遺伝的障害者を数えれば、これらの数値にすべて倍する数に達する死者が出ることが明らかであろう。

真剣な議論と対策を

三について。核兵器事故の確率は米軍が核兵器自体の存在を明らかにせず、事故発生を否認することが政策的に許されているため、わからない。しかし、米軍では明らかにすただけでも過去三二回の事故を起こしており、そのうち三回は太平洋で、三回は場所が不定である。推進用原子炉事故の確率は、発電用にも用いられている加圧水型の技術であるため確率を推定しやすい。一原子炉につき一年間に約一千分の一。米軍では一六一基の推進用原子炉が稼働中であるので、全体では千分の一六一である。

(88.5.21~6.18)

○前月からの繰越 $\Delta 591,691$

借入金繰越 $\Delta 426,000$

一 維持団体 0

参加团体 0

逐個會員	12,000
------	--------

◎五排上 上 = 4.500

○往庫死上	7,800
-------	-------

計△505,491

丁 經常繰越 $\Delta 214.981$

1

計△505,491

海上自衛隊と米軍の「一枚岩」
体制はますます強まる……

今回、海軍が参加する主力部隊は、対潜艦にミナト三編を擁護する「〇二」(五・二)と「〇七」(五・七)の二隻、八號機を持つ「二八艦隊」と呼ばれる編成で、海軍自身は最も近代化された水雷戦艦。

この要に加え、補給艦として初めて参加した「六二〇〇」が加わる。これらのリムパックでは、護衛艦や輸油船も光るの指定の日時、場車とは距離を並べようになら

国会の論議も減り既
緊密な日米防衛協力
なす。

リムバークは昭和四十六年、
米、カナダ、オーストラリア、
ニュージーランドが参加して始
まり、四十八年からは毎年
に一回行われている。海軍米
側の招待に応じて初参加したの
は、

艦機」に潜水艦一隻と、米に
次ぐ規模の部隊を派遣するまで
になった。

カナダ、オーストラリアの参
加機にそれほどの変動はない
のに比べ、海軍の増強などは際

成事実化

の象徴に

6/10

酒留のハイライトは、サンジエゴからワシントンまでを舞台とする対抗艦隊の対水上、対潜、防空、電子戦などの訓練。

海自は海軍と組む。原子力空母ニミッツ（ハ一六〇）と共同防衛艦艇二隻を含め、なぞを追及した。しかし、今回ばかりでなく、国連がしつこくたてられた議論は全くリムパック参加は既成事実化兆し。防衛庁幹部は一演習の内容もこれと変わっていないし、恒例化してきているという。

米との距離離れ戦力（IN F）全廃案や、ゴルフデョフ書記長のニュールック政策で、世界に緊張緩和の号しが流れたのだ。

選んだニュージーンランドの前哨から来航し招待された米不参加。核機船寄港拒否問題で、米による制約的措置と見られていた。それだけに、米と枝節する派遣部隊を増強している日本は、リムパックでますます重みを増している。「いまは、海自抜きのリムパックは考えられない」と、海自関係者がうしろさげ。

きょう開始のリムパック88

米海軍が主催し、日米の海軍が、オーストリアが参加する環太平洋海軍合同演習「リパバック88」が、日本時間にて十七日から廿二日間、米國ハワイや中部太平洋で繰り広げられる。この演習の趣向と、その中、日本が太平洋で繰り広げる西側の七日間「展示の場」の向上とをともに、本誌を取り巻く、西側の結束と「展示の場」の向上と、海上自衛隊は、最精鋭の護衛艦八隻と、駆逐艦、対潜艦、対空艦八隻と、これまでの最大規模の部隊を派遣した。リパバックは、緊要化する日本防衛協力の様相に見える。

(横山 隆記著)



雨の中、リムパック88に向かう自衛隊
「一日、東京湾警備海域で、朝日新聞社ヘリコプターから
防衛省幹部は「訓練を充実さ
すため」としているが、米側
にも精鋭拡大の要請があった
という。防衛側は空洋をほそ
んだ日米協力の関係ぶりを
暗示する狙いがあるようだ。日
本側へ「日米同盟の訓練など
と比べ、宣伝効果はあるかに
上」

太平洋戦略の一環で、海空軍の

6月17日 朝日

国会の論議も減り既成事実化
緊密な日米防衛協力の象徴に

6/10 APR

月刊反トマホーク通信

No
32

＊発行
一九八八年六月二〇日発行
トマホークの配備を許すな全国運動

東京都渋谷区渋谷二一五―九パル
青山五〇二―トマ喰い虫社

〇四四(六三)五一〇一
 〇三(四九八)六〇九五

* 編集 反トマホーク通信編集委員会
* 定価 一〇〇円（通信会員年間二〇〇〇円）